

国立国語研究所学術情報リポジトリ

平成17年度日本語教育短期研修報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/1891

平成 17 年度日本語教育短期研修報告

『作文対訳データベース』の多様な活用のために』

日時：平成 18 年 1 月 29 日（日）

場所：国立国語研究所講堂

参加人数：93 名

国立国語研究所では、2001 年以來「日本語学習者による日本語作文と、その母語訳との対訳データベース」（作文対訳 DB）を作成・公開してきた。作文対訳 DB は、学習者が書いた日本語作文のほか、「執筆者本人による日本語作文の母語訳」と「日本語作文の添削情報」を含む点に特徴がある。母語訳のデータは、「学習者は何を書きたかったか」、「日本語作文の誤用や不自然な表現は母語の影響か」などを考えるのに役立つ。また、添削情報は、学習者の誤用や不自然な表現に対する日本語教師や一般の日本語母語話者の反応を調べるための手がかりとなる。この研修では、作文対訳 DB を用いた研究成果の一部を紹介し、日本語学習者の作文データを用いた研究の可能性について考えた。

【講演】

- ・学習者の日本語作文と母語の作文の比較（国立国語研究所 井上優）
- ・中国人学習者と日本語母語話者の意見文の比較—文末のモダリティ及び疑問文の分析—（東京大学大学院 伊集院郁子・高橋圭子）
- ・形態素情報からみた学習者作文の特徴（国立国語研究所 鐘水兼貴）
- ・学習者作文に対する教師コメントの分析（国立国語研究所 宇佐美洋）
- ・質疑応答・ディスカッション

『日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究—海外調査の成果と展望—』（日本語教育シンポジウム）

日時：平成 18 年 2 月 5 日（日）

場所：国立国語研究所講堂

参加人数：75 名

国立国語研究所では、2000 年から国内外の地域（日本、タイ、オーストラリア、韓国、台湾、マレーシア）を対象に、各地域・機関と連携し

ながら 5 年計画の大規模調査「日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究」を実施した。本調査では、国内外で日本語を学習している（教えている）人々が、どのような環境・手段で日本語を学習している（教えている）のか、その実態を調査した。このシンポジウムでは、その中から学習者を対象とした海外調査の成果を報告し、これからの日本語教育実践に向けた展望と可能性について、参加者とともにディスカッションを行った。

【講演】

- ・日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究の概要と成果（国立国語研究所 小河原義朗）
- ・リソースとの接触は何をもたらすか—教育への示唆—（台湾・東海大学 工藤節子）
- ・「環境」を利用した教室作りのために（タイ・アサンプション大学 タナサーンセーニー美香）
- ・日本語教育を活かすためのリソース・リテラシー（韓国・同徳女子大学 李徳奉）
- ・質疑応答・ディスカッション

【ポスター発表】

- ・「台湾の『日本語世代』は何をどのように用いて学習しているのか？」—日本語教育の学習環境と学習手段に関するインタビュー調査—（台湾大学 藤井彰二）
- ・台湾の中等教育における日本語学習者の学習リソースに関する面接調査（交流協会高雄事務所 上條純恵、台湾・東海大学 李金娟）
- ・マレーシアの一般日本語教育機関における学習者の学習意識と学習環境—ペラ馬日友好協会を一例として—（ペラ馬日友好協会 小林百恵、拓殖大学 阿久津智）
- ・リスニングに関わるリソースの使用とリスニング能力との関係—タイの大学生の場合—（タイ商工会議所大学 佐藤純）
- ・台湾日本語学習者の学習リソースに関する面接調査—社会人を中心に—（台湾・国立嘉義大学 林明煌）
- ・学習者の学習環境と学習手段に関する調査と

調査実施に伴う成果（マレーシア科学大学
ヨーリースー）

- ・学習者のリソース利用をどう共有するか？
（韓国・仁済大学校 国実久美子，国立国語
研究所 笠井淳子）
 - ・台湾在住の日台婚姻家庭における子どもの日
本語習得（台湾大学 服部美貴）
 - ・学習者による自習用自作語彙集の作成におけ
るリソースの利用（マレーシア・International
Languages Teachers Training Institute アン・
チュイ・キエン）
- 【パネルセッション「学習を促すリソースとは？」】
- ・パネリスト（Robyn Spence-Brown，岡部真理
子，金田智子他）による討論。司会：石井恵
理子（東京女子大学）

『作文採点者間ミーティングの運営と教育現場 での実践について』

日時：平成18年2月12日（日）

場所：国立国語研究所 多目的室

参加人数：20名（非公開形式によるワーク
ショップ）

日本語教育における作文の重要性は，作文を
試験科目として課す大規模試験が近年行われて
いることもあって，教育の現場でも認識される
ようになってきている。しかし，実際に学習者が書
いた作文の何を重要と考え，また，それをどう
客観的に評価していくかについては，評価手順
や評価基準に関する共通認識がないため，教師
一人一人の判断に任されてしまうことが多い。
この研修は，大学での初級課程修了段階から専
門教育に移行する前までの段階の学習者の作文
を元に，教育機関の中で教師が作文の評価に直
接関わる「採点者間ミーティング」と呼ばれる
手法を参加者に体験してもらうことを目的とし
て実施した。汎用に用いられることを想定した
採点手順の紹介と評価基準の利用法を紹介し，
参加者が実際に採点手順を体験することで，各
自の現場における作文評価について考えた。

【ワークショップ】

- ・参加者による練習用作文の評価，グループに
よる報告，ディスカッション。講師：田中真理

（電気通信大学）長阪朱美（恵泉女学園大学）
『「作文対訳データベース」の多様な活用のために』

日時：平成18年3月5日（日）

場所：広島YMCA ホールコンベンションホール

参加人数：54名

（趣旨は平成18年1月29日（日）と同じ）

【講演】

- ・言語データとしての作文対訳データベース
（国立国語研究所 井上優）
- ・形態素情報と添削情報を利用した学習者作文
の分析（国立国語研究所 鏈水兼貴）
- ・学習者作文に対する教師コメントの分析（国
立国語研究所 宇佐美洋）
- ・質疑応答・ディスカッション

『語彙教育のためのコーパスの活用』

日時：平成18年3月22日（水）

場所：キャンパスプラザ京都 第4講義室

参加人数：51名

現代日本語の実態を日本語教育の内容に反映
させることは，日本語教育における重要な課題
の一つである。そして，現代日本語の実態を把
握するために，コーパスは有効な道具の一つで
ある。この研修では，コーパスを利用すること
によって，どのような現代日本語の実態が把握
できるか，そして，それをどのように活用すれ
ば学習者・教師にとって有益な情報になるかを
考えた。

【講演】

- ・日本語コーパスとコロケーション（姫路獨協
大学 大曾美恵子）
- ・コーパスを利用した複合動詞の類義分析（名
古屋大学 杉村泰）
- ・学習者が新聞を読むための基本外来語の選定
（阪南大学 中山恵利子，国立国語研究所
桐生りか，国立国語研究所 山口昌也）
- ・コメント（国立国語研究所 井上優）
- ・質疑応答・ディスカッション

（記：井上優）